

日本スポーツ社会学会会報

VOL. 76



= 目次 =

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 第30回大会実行委員会 実施要項 | 5. 各委員会からのお知らせ |
| 2. 第30回大会における研究委員会の企画 | 5-1. 編集委員会 |
| 2-1. 研究委員会企画シンポジウム | 5-2. 研究委員会 |
| 2-2. 学生企画シンポジウム | 5-3. 国際交流委員会 |
| 3. 第30回大会における | 5-4. 電子ジャーナル委員会 |
| 国際交流委員会企画シンポジウム | 5-5. 広報委員会 |
| 4. 第30回大会における実行委員会企画 | 5-6. 学生研究奨励賞選考委員会 |
| 4-1. 大会実行委員会企画シンポジウム | 6. 事務局より |
| 4-2. 第30回記念大会特別講演 | 6-1. 2020年度理事会議事録
(第7回～第11回) |
| | 6-2. 事務局からのお知らせ
(第16期理事選挙、電子情報システム導入、
入会申込・種別変更届、等) |
| | 7. 編集後記 |

日本スポーツ社会学会
Japan Society of Sport Sociology
広報委員会 2021年1月

1. 日本スポーツ社会学会第30回大会 実施要項

1-1. 開催方法

オンラインでの開催とする。第30回大会ホームページ <https://spsociology.org/>

1-2. 開催期間

2021年2月27日(土)・28日(日)

※シンポジウムは後日、オンデマンドで配信予定です。

※大会期間中に総会を開催する予定です。開催方法は決定次第お知らせします。

	午前	午後	夕方
2月27日 (土)	学生企画シンポジウム (ライブ予定)	実行委員会企画 シンポジウム (ライブ予定)	第30回記念大会 特別講演企画 (オンデマンド+質問) ※終了後にオンライン で懇親会を行う予定
2月28日 (日)	国際交流委員会企画 シンポジウム (オンデマンド +一部ライブ予定)	研究委員会企画 シンポジウム (ライブ予定)	クロージング (予定)
一般発表	オンデマンド形式で開催。視聴期間：2月27日(土)～3月14日(日)		
質疑応答	質疑に対する回答の閲覧期間：3月24日(水)～4月7日(水)		

1-3. 主催

日本スポーツ社会学会

1-4. 大会までの主なスケジュール

事項	締切日
一般研究発表 申込	2020年12月15日(火)
一般研究発表 抄録提出	2021年1月19日(火)
大会参加申込	2021年1月29日(金)
一般研究発表 発表資料提出	2021年2月14日(日)

1-5. 大会参加申込

日本スポーツ社会学会大会ホームページの「参加申し込み」ページのフォームから申込みを行なってください。

◇参加申込先：参加申込 <https://spsociology.org/application/sankaap>

◇参加費：参加申し込みと同時に、ゆうちょ銀行または郵便振替票、もしくは他行より大会参加費を大会実行委員会口座までご送金ください。

種別	参加費
正会員	3,000 円
学生会員	1,000 円
非会員・一般	3,000 円
非会員・学生	1,000 円

◇参加費振込先

次の 2 つから選ぶことができます。

①総合口座 14510-25999361

ゆうちょ銀行口座をお持ちの方はこちらが便利です。

他行からの振込の場合は「ゆうちょ銀行、四五八店、普通、2599936」

②振替口座 00970-9-334985（他行から振込みをされる場合はこちらがお得です）

他行からの振込の場合は「ゆうちょ銀行、〇九九店、当座、0334985」

- ・口座名称：「日本スポーツ社会学会大会実行委員会」（①・②とも同じ）

口座名称のカタカナ表記について、文字数の制限で「ニホンスポーツシャカイガツカイタイカイジッコウイインカ」になっています。

1-6. 一般研究発表申込

◇発表申込み締切日 2020年12月15日（火） → 2020年12月22日（火）まで
延長されました。

大会ホームページの発表申込みページ

（<https://spsociology.org/application/happyou-ap>）から、指示に従って必要事項を記入・送信していただくことで、発表申込みができます。

発表内容については、上記ホームページの該当箇所に、1,200～1,600 字程度（英文の場合は 300 ワード程度）の概要を記入・送信してください。

◇一般研究発表の資格に関する注意事項

一般研究の発表者の資格は以下の通りです（「日本スポーツ社会学会大会開催に関する規定」第 5 条による）。

①発表者および共同研究者は、日本スポーツ社会学会会員であること。

②発表者および共同研究者は、その年の年会費を納めていること。

③発表者は大会参加費を納めていること。

④大会に参加しない共同研究者は、大会参加費を納める必要がないこと。

発表者は、「年会費」「大会参加費」の納入についてご確認ください。未納の場合は発表申込ができませんので、必ず期日までに納入を済ませてください。また、これを機に入会を希望される方は理事会での入会審査が必要になりますので、余裕を持って学会事務局に入会申請を行ってください。

納入の確認が必要な場合、年会費については学会事務局へ、大会参加費については学会大会実行委員会へお問い合わせください。

学会事務局メールアドレス：jsssjimukyoku@gmail.com

学会大会実行委員会メールアドレス：jsss30web@gmail.com

◇発表抄録原稿の提出締切日 **2021年1月19日(火)**

発表申し込みをしていただいたのち、研究委員会にて審査が行なわれます。審査を経て、学会発表が許可されたものについては、発表抄録の原稿を提出していただきます。

発表抄録原稿用テンプレートは、大会ホームページからダウンロードできます。書式を利用するには、Microsoft Office Word 2013（あるいはそれ以上の年式）が必要です。テンプレートの書式に従って作成いただいた原稿は、2021年1月19日（火）までに、実行委員会から送付するメールに記載の Dropbox リンクより提出してください。ファイル名は「日本スポーツ社会学会発表抄録」（お名前）としてください。

◇一般研究発表に関する注意事項

一般研究発表の時間は20分です。なお発表方法はオンデマンド方式で以下の①②のいずれかとします。

①音声付きの動画（レジュメなどの資料の配布は選択いただけます）

②レジュメ（PDF）などの配布資料に音声を付ける（音声と別々に提出可）

なお、音声付き動画の作成方法につきましては、マニュアルを配付いたしますが、資料作成でお困りの方は、大会事務局にご相談ください。

1-7. 学会大会実行委員会について

大会長：伊藤 公雄（京都産業大学）

委員長：奥田 睦子（京都産業大学）

委員：石坂 友司（奈良女子大学）

委員：市井 吉興（立命館大学）

委員：河西 正博（同志社大学）

委員：佐藤 彰宣（東亜大学）

委員：高橋 豪仁（奈良教育大学）

委員：西山 哲郎（関西大学）

委員：浜田 雄介（京都産業大学）

【大会に関する問い合わせ】

京都産業大学 奥田 睦子・浜田 雄介

〒603-8555 京都府京都市北区上賀茂本山

京都産業大学現代社会学部

Email: jsss30web@gmail.com

spsociology.org@gmail.com (WEB 担当)

お問い合わせは、お手数をおかけいたしますがメールにてお願いします。また、その際には件名に、【日本スポーツ社会学会第30回大会について】とお入れください。

以上

2. 第30回大会における研究委員会の企画

2-1. 研究委員会企画シンポジウム

日時：2021年2月28日（日）午後開催予定

テーマ：「性の多様性をめぐるスポーツと権力」

趣旨：

性の多様な在り方が受容されつつある現代世界において、あくまで男／女という性のあり方に固執し続ける分野、それがスポーツである。スポーツは歴史的に **masculinity** と関係してきたが、今やそれ自体が資本主義的遺物のように捉えられつつあり、時代はそこからの解放を模索している。また、スポーツと競争は切り離せないものだが、競争に必要とされる公平性は、マイノリティの自由と権利が広く認められるにしたがい、現代では単純には構築できなくなっている。人間の身体を男女という二つの性によって分けることに医学的理由を見出すことは困難であり、性はレインボーで象徴される時代である。スポーツがなお男女二元論の性制度に今後も固執し続けることができるとは、到底考えられない。陸上南アフリカ代表のセメンヤ選手を例に挙げるまでもなく、すでに現実のほうはスポーツの制度より先に進んでしまっているようだ。

さて、差別に反対し、多様性と調和を理念に掲げるオリンピックの未来、スポーツの未来とは、どのようなものだろうか。スポーツは新時代にたいして何かを応えていけるのだろうか。

もちろんその回答は簡単ではない。現代のスポーツ、ないし、生きられた身体の現場で、アスリートたちは伝統的な性制度を前に、どのような戸惑いと痛みを経験しているのだろうか。それを私たちは、どのような身体的表象によって理解しているのだろうか。スポーツのなかに新しい制度への可能性は育っているのだろうか。社会学は、まず目の前に起こっている一つ一つの事象に目を向けるところから始め、これらの問いに向き合わなければならないだろう。このシンポジウムは、スポーツ社会学が、制度と身体が対峙する生々しい現場を、どのような言語で語れるのかを考えるものである。

シンポジスト：井谷聡子（関西大学）

小林美香（写真研究家）

岡田桂（立命館大学）

指定討論者：稲葉佳奈子（成蹊大学）

鈴木楓太（京都先端科学大学）

司会：中江桂子（明治大学）

2-2. 学生企画シンポジウム

日時：2021年2月27日（土）午前開催予定

テーマ：「義足アスリートにみる身体とテクノロジーの関係性」

概要：

Society 5.0 が目指すべき未来社会の姿として内閣府によって提唱され、IoT（Internet

of Things) や AI (人工知能)、ビッグデータといった科学技術をいかに活用するかが近年よく議論されている。スポーツにおいても、ビデオ・アシスタント・レフェリー (VAR) やチャレンジシステムなどが導入され、スポーツへのテクノロジー導入の是非が問われている。

スポーツとテクノロジーの関係に焦点をあてた研究を概観すると、スポーツにおける用具や先端技術に着目し、テクノロジーの発展がスポーツにどのような影響を及ぼすのかを探る論考 (柏原, 2018) や、テクノロジーは「近代スポーツがつくりあげてきた『自然な身体』という身体観」 (坂, 2016) にどのような揺らぎを生じさせたのかを考察する論考がいくつかみられる (佐伯, 2009)。それらの先行研究の一つの特徴は、テクノロジーの発展によってスポーツをする主体が消失していくと主張する点にあるだろう。我々の日常生活は人間の身体と人工物が協働して成り立っているにもかかわらず、スポーツにおいては人間の身体と人工物を切り離すように考えてしまう (渡, 2013) のはなぜだろうか。こうした問題意識に基づき、本シンポジウムでは、スポーツのなかでもテクノロジーと身体の関係性が特徴的に表出されると考えられる義足アスリートに着目し、スポーツにおける身体をめぐる問題について議論する。

具体的には、はじめに世話人の平賀 (筑波大学大学院) より 2020 年度第 2 回関東学生フォーラムでの議論を引き継いだ本企画の経緯と趣旨について、そして同じく世話人の宮澤 (筑波大学大学院) より、スポーツ界においてテクノロジーがどのように語られてきたのかについて、先行研究の整理をもとに報告する。次いで障害者スポーツ論をご専門とされる渡正先生 (順天堂大学) より、身体と外部環境との相互作用システムとして義足アスリートを捉える視点をご提示いただく。その後、総合討論として、渡先生、パラリンピック陸上競技男子走幅跳 (T64 クラス) アジア記録保持者である又吉康十選手 (ゼンリンデータコム) にご登壇いただき、関東学生フォーラム世話人の 3 人 (中村・宮澤・平賀) を交え、義足アスリートが自身と義足との関係をどのように捉えているのか、また、スポーツとテクノロジーの関係を問う際、人間の身体と人工物を切り離すように考えてしまうのはなぜなのかについてディスカッションを行う。

登壇者 :

渡正 (順天堂大学)
又吉康十 (ゼンリンデータコム)
中村真博 (立教大学大学院)
宮澤武 (筑波大学大学院)
平賀慧 (筑波大学大学院)

担当 : 関東学生フォーラム世話人

中村真博 (立教大学大学院)
宮澤武 (筑波大学大学院)
平賀慧 (筑波大学大学院)

3. 第30回大会における国際交流委員会企画シンポジウム

実施方法：事前収録による講演（学会大会開始前から視聴可能）と

オンラインでのディスカッション（2021年2月28日（日）午前）

テーマ：フィギュレーション社会学とスポーツ社会学研究の足跡をふりかえる

概要：

エリック・ダニングがケネス・シェドと共著で *Barbarians, Gentlemen and Players* を出版したのが1979年、1983年には『ラグビーとイギリス人——ラグビーフットボール発展の社会学的研究』として訳書が発行された。スポーツ社会学における歴史社会的アプローチの有効性が再認識されるとともに、フィギュレーション社会学が日本のスポーツ社会学研究においても一つの大きな影響を与えた。

フィギュレーション社会学がスポーツ社会学の発展に対する寄与のプロセスと1991年に設立された本学会の足跡は時代的にオーバーラップする部分も多々ある。フィギュレーション社会学のスポーツ社会学研究発展への貢献について世界を代表する研究者と共に振り返るとともに、スポーツの高度化に伴う極限点（暴力、許容範囲を超えた怪我・傷害、ドーピング）を経験している現状を考察するに際しても有効なアプローチであることを考える機会を持つ。

パネリスト：

ドミニク・マルコム（ラフバラ大学：ノルベルト・エリアス財団フェロー）

トニー・ファン（黄東治）（台湾国立体育大学、台湾スポーツ社会学会前会長、IRSS編集委員、EAST編集委員他）

ケビン・ヤング（カルガリー大学、元ISSA副会長）

大平章（早稲田大学名誉教授）

司会：海老島均（成城大学）

パネリストの紹介：

長年スポーツ社会学研究の第一人者であったエリック・ダニング氏は残念ながら昨年逝去された。レスター大学でダニング氏と長年共に研究活動を行い、現在はラフバラ大学で教鞭を執るマルコム氏はフィギュレーション社会学派のスポーツ社会学研究の中心人物であり、国際学会でスポーツの高度化に伴う極限点に関して多くの興味深い発表を行っている。

ファン氏はISSAの理事として長年活躍されていて、台湾スポーツ社会学会の前会長であり、現在もIRSSや幾多の学会誌の編集委員をされている。ファン氏はフィギュレーション社会学を用い日本の占領下における台湾での野球の発展に関しての論文等著書も多数で、台湾のスポーツ社会学会の発展を担ってきた人物である。

ヤング氏は北米スポーツ社会学でフィギュレーション社会学を用いて数多くの論文、著作を出版されISSAの副会長も経験された。ヤング氏が研究の中心テーマとして扱ってきたのがスポーツと暴力の問題の問題であり、この研究手法の有効性が凝縮されている。

大平章氏はエリック・ダニングの2本の主要著作（『スポーツと文明化』『問題としてのスポーツ』）を翻訳し、ダニング氏の業績に関して造詣が深い。大平氏はスポーツと文明化の研究におけるダニング氏の功績と日本のスポーツ社会学への影響に関して著作にまとめられている。

4. 第30回大会における大会実行委員会企画

4-1. 大会実行委員会企画シンポジウム

日時 : 2021年2月27日(土) 午後開催予定

テーマ : スポーツ文化を革新する新潮流とスポーツ社会学の「課題」

趣旨 :

新型コロナウイルス感染症により、2020東京オリンピック・パラリンピックは延期となった。今次大会は自国開催ということもあり、オリンピック・パラリンピックに対する侃々諤々な議論がなされてきた。さらに、新型コロナウイルス感染症による、オリンピック・パラリンピックの延期という事態は、オリンピックのあり方、従来のスポーツイベントの運営のあり方、さらには、「スポーツのあり方を見直さねば」という機運を高めている。

この「スポーツのあり方を見直さねば」という機運に対して、現地実行委員会は、この間注目を集めている新たなスポーツ潮流——ライフスタイルスポーツ、アダプテッドスポーツ、eスポーツ、超人スポーツ、ゆるスポ等——を取り上げ、このようなスポーツを生み出す「ダイナミズム」を把握し、スポーツ文化の再検討を試みるシンポジウムを企画する。また、この試みを通じて、新たなスポーツ潮流を分析するスポーツ社会学の「課題」も浮き彫りになってくるのではないだろうか。

なお、上記のスポーツ潮流にはそれぞれ多彩で独自の展開がみられるので、シンポジウム冒頭、企画趣旨説明も含めて、日本における「ニュースポーツの実践や研究」の系譜を議論の補助線として提示する。

このシンポジウムの獲得目標は、新たなスポーツ潮流が近代スポーツを相対化し、スポーツを介して検討しようとした社会のあり方、文化のあり方、スポーツのあり方をめぐる、登壇者、フロア参加者による闊達な議論を生みだし、今後のスポーツのあり方への多様な意見、アイデアを共有することにある。

シンポジスト : 市井吉興 (立命館大学)
 原祐一 (岡山大学)
 藤田紀昭 (日本福祉大学)
指定討論者 : 水野英莉 (流通科学大学)
司会 : 市井吉興

4-2. 第30回記念大会特別講演

創立30周年を迎える日本スポーツ社会学会にとって、あるいは社会学という学問自体にとって、独自の研究領域と方法を確立することは、その歴史上、常に課題となってきた。その際、特に問題となるのは、他の専門分野との「距離」をどう設定するかであろう。歴史学や経済学、言語学や心理学といった専門分野とは、方法論を借用することもあれば、社会学的な視点や力点を強調して差異化に努めることもあった。その差異化の試みを、単に自己の正当化にとどまらず、創造性豊かな視野の獲得につなげることが（スポーツ）社会学の発展に重要なのは言うまでもない。

そういった狙いから、第30回大会を記念する特別企画として、歴史学の分野から高嶋航先生（京都大学）をお招きし、ご講演をお願いした。高嶋先生は、これまで近現代の「日本」のスポーツ史で目覚ましい成果をあげて来られた。ここで「日本」とカッコに入れたのは、ご研究の焦点が二つの世界大戦の間、「大日本帝国」が急速に領土を拡大して、「日本」概念の拡張を迫られた時期に当てられてきたからである。国内の資料だけではなく、周辺地域の資料から見えるものを取り込まれた点で、先生のご研究は独自の視野と価値を確保されているが、そこから我々が学べることは少なくないものと期待している。

なお、今回のご講演は、大会初日（2月27日）に録画を配信するかたちで行われる。ご講演に対して質問やコメントのある方は、学会大会サイトの当該ページに質問フォームが設置されるので、そこから発信いただきたい。高嶋先生からの回答は、1週間から10日後に大会サイトの同ページで公開し、大会期間の終了（4月7日）まで掲載される。

講演タイトル：「スポーツ史と私」

講演者：高嶋航（京都大学）

5. 各委員会からのお知らせ

5-1. 編集委員会

『スポーツ社会学研究』投稿論文募集中

2016年4月より、『スポーツ社会学研究』への投稿については、締め切り日が廃止されております。会員の皆様が、いつでも投稿できる、通年受付となっております。また掲載が決まった論文についてはJ-Stageにて早期公開を行っております。現在、第29巻第1号(2021年3月刊行予定)の編集を進めております。次の第29巻第2号(2021年9月刊行予定)に向けても、お早めにご投稿下さるよう、お願いいたします。学会HPの『「スポーツ社会学研究」の発行に関する規定』についても、順次、改定されております。熟読いただき、編集委員会事務局(jjosshensyu@gmail.com)まで、ご投稿いただければ幸いです。尚、投稿等に際し、ご質問等ございましたら、同じく、編集委員会事務局まで、メールにて、お問い合わせいただければ幸いです。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。

編集委員長 岡田光弘(成城大学・非常勤講師)

5-2. 研究委員会

①学会大会における事業については、本会報の下記をご参照下さい。

2. 第29回大会における研究委員会の企画

2-1. 研究委員会企画

2-2. 学生企画シンポジウム

②その他、下記の事業を実施しました。

・2020年度第1回WEB研究セミナー「復興とスポーツ、五輪」

2020年10月17日(土)

・2020年度第1回学生フォーラム 2020年9月5日(土)

・2020年度第2回学生フォーラム 2020年12月20日(日)

研究委員長 大沼義彦(日本女子大学)

5-3. 国際交流委員会

①学会大会について

すでに広報されたとおり、第30回記念大会において、国際シンポジウムを企画しています。国内を含む4か国から登壇者をお迎えし、事前収録による講演とオンラインでのディスカッションを計画しています。時差のある中、ライブでの議論にご参加いただけるよう準備しておりますので、たくさんのご参加を期待しております。

なお、講演については、学会大会開催前から視聴いただく形をとる予定です。

②国際学会の動向

NASSS(北米スポーツ社会学会)

2020: New Orleans, LA, US. November 4-7, 2020.

→ Virtual Conferenceで開催済み

2021: Montreal, Quebec, CA November 3-6, 2021.

2022: Las Vegas, Nevada, US, November 2-5, 2022.

ICSS (国際スポーツ社会学会)

2020: Dubai, United Arab Emirates, December 17-18, 2020. → DIGITAL

2021: Sydney, Australia, December 02-03, 2021.

EASS (ヨーロッパスポーツ社会学会)

2020: postponed

2021: Southampton, UK, May 17-20, 2021.

2022: Budapest, Hungary.

2020年度は世界中の学会大会が対面での開催を見送りました。2021年度は公表されている予定どおり、人々が参集する場となることを期待します。

国際交流委員長 前田博子 (鹿屋体育大学)

5-4. 電子ジャーナル委員会

2019年9月30日に発行された第27巻2号の特集論文が発行から1年経過しましたので、J-Stage上にアップロードされました。特集のタイトルは「男性性」からみたスポーツの現在で以下の3つの論文と特集 (<https://doi.org/10.5987/jjsss.27-02-1>) のねらいが掲載されています。

- ・伊藤公雄氏「変容する現代スポーツと男性性」(<https://doi.org/10.5987/jjsss.27-02-2>)
- ・高峰修氏「男性学からみたスポーツをめぐる「女性の商品化」問題」
(<https://doi.org/10.5987/jjsss.27-02-3>)
- ・岡田桂氏「スポーツにおけるマスキュリティのグローバルな再配置-フィギュアスケート・人種・セクシュアリティのジェンダー表象」(<https://doi.org/10.5987/jjsss.27-02-4>)

また2020年9月に発行された28巻2号に掲載された、石田智佳氏「国立競技場の再開発とアパート住民の立ち退き」(<https://doi.org/10.5987/jjsss.28-02-1>)、笹生心太氏「スポーツを通じた人々のつながりの形成に関する事例研究-沖縄のリーグボウリングに着目して」(<https://doi.org/10.5987/jjsss.28-02-2>) が現在公開されています。2021年3月に紙媒体で発行される第29巻第1号に掲載予定の早期公開論文は、現時点ではありませんが、紙媒体刊行の2ヶ月前までに受理された論文がありましたら、J-Stageで早期公開させていただきます。

電子ジャーナル委員長 渡 正 (順天堂大学)

5-5. 広報委員会

広報委員会では、公式ホームページやメーリングリストによるタイムリーな情報提供と会報の編集・発行が主な業務です。特に、会員の皆様には、学会ホームページやメーリングリストで会員に広く告知してほしい研究セミナーや交流研究会など積極的な情報提供を随時受け付けています。takahasi@cc.nara-edu.ac.jp まで、お寄せください。

広報委員長 高橋豪仁 (奈良教育大学)

5-6. 学生研究奨励賞選考委員会

論文部門について、昨年度は審査対象となる論文がありませんでしたが、今年度は審査対象となる論文がありましたので、現在（2020年12月12日）、審査を行っているところです。また、発表部門については、日本スポーツ社会学会第30回大会（2021年2月27日－28日）での一般発表が審査対象となります。

学生会員の皆さんには、この制度をきっかけにご自身の研究をより洗練させ、論文投稿および口頭発表へとつなげていただくことを期待しておりますので、ぜひチャレンジしていただきたいと存じます。

奨励賞選考委員長 奥田睦子（京都産業大学）

6. 事務局より

6-1. 2020年度理事会議事録（第7回～第11回）

2020年度 日本スポーツ社会学会 第7回理事会（メール審議） 議事録

期日：2020年8月25日～8月30日

議事録担当：石坂（事務局長）

<審議事項>

1. 日本体育スポーツ健康科学学術連合の役員選挙について

改選される日本体育スポーツ健康科学学術連合の役員選挙について、日本スポーツ社会学会から代表、副代表候補を推薦しているが、その後の投票について理事長より以下のように提案され、異議なく承認された。

- ・第1回目の投票では代表は菊幸一会長、副代表は大沼義彦理事に投票し、第2回目以降の決選投票が生じた場合は菊会長に一任する。選考結果は後日理事会で報告を行う。
- ・運営委員と監事団体の選任については、学会規模、これまで選任されてきた団体の状況や過去の経緯を踏まえ、投票は菊会長に一任する。選考結果は後日理事会で報告を行う。

以上

2020年度 日本スポーツ社会学会 第8回理事会 議事録

期日：2020年9月11日（金）13:00～15:00

場所：オンライン開催（Webex）

出席者：石坂、海老島、大沼、岡田、奥田、甲斐、菊、清水、高尾、高橋、中江、西山、前田、松田、渡（以上、理事）、飯田（監事）

欠席者：西村（監事） 以上、敬称略

議長：西山理事長

議事録：浜田（事務局次長）

議事に先立ち、西山理事長より出席状況の確認がなされ、開会宣言が行われた。

<報告事項>

1. 各委員会の活動進捗状況（各委員会）【資料1】

各委員会の2020年の活動進捗状況について報告が行われた。

(1) 編集委員会（岡田委員長）

2020年のこれまでの学会誌編集作業について、学会誌第28巻第2号が予定どおり刊行される見込みであること、横浜スポーツ学術会議の報告について、掲載形式を今後検討していくことが報告された。また西山理事長より、オンラインでの会議開催においてzoomなどの契約が必要な場合、委員会の予算で対応してほしい旨が伝えられた（音声トラブルのため、順番を変更して(2)研究委員会の後に報告）。

(2) 研究委員会（大沼委員長）

2020年の活動進捗について、以下の報告がなされた。

- ・今年度の学生フォーラムは地区の東西を分けないオンライン開催の形で、参加者・報告者を募集した。9月5日開催の第1回フォーラムは盛会のうちに終了した。

- ・第29回大会で実施できなかったシンポジウムを、研究セミナーとして10月17日（土）に開催予定である。また本セミナーを第30回大会シンポジウムの予備勉強会とすることも検討中である。
 - ・第30回大会研究委員会シンポジウムについては、記念大会にふさわしい内容を検討中である。
 - ・2020年度学会大会学生フォーラム企画シンポジウムについても、2019年度のテーマを広げた形を基本としつつ、内容を検討中である。シンポジウムを担当する地区について質問があり、本来なら2020年度の担当は関西地区だったが、2019年度の企画内容を持ち越す予定であること、関西地区の院生が少ないことなどから、2020年度も関東地区が運営の中心になる。
- (3) 国際交流委員会（前田委員長）

韓国スポーツ社会学会から依頼された同学会の30周年記念に対する会長祝辞へ対応したこと、横浜スポーツ学術会議において委員会メンバーが個々に活動していることが報告された。
 - (4) 広報委員会（高橋委員長）

会報第75号は現在校正中で間もなく配信されること、第76号は12月に配信予定であること、引き続きホームページ上での学会関連イベントの広報を行っていくことが報告された。
 - (5) 電子ジャーナル委員会（渡委員長）

学会誌第28巻第2号の投稿論文および27巻第2号の特集論文の電子ジャーナル化を行う予定が報告された。
 - (6) 学生研究奨励賞選考委員会（奥田委員長）

学会誌第28巻1号・第2号および第30回大会を対象として、今年度の研究奨励賞論文部門・発表部門の選考を行っていくことが報告された。

2. 「2020 横浜学術会議」について（理事長）【資料2】

西山理事長より、オンライン開催となった横浜スポーツ学術会議について、本学会が関係する企画は概ね順調に行われていることが報告された。また一部の企画は学会ホームページにてオンデマンド視聴できるようになっていること、謝金を支払う講演者から、報告内容の文章化および学会誌への掲載について了承を得ていることが説明された。

3. 韓国スポーツ社会学会30周年記念祝賀会祝辞について（国際交流委員会）【資料3】

前田委員長より、韓国スポーツ社会学会から依頼を受けた同会の30周年記念に向けた会長祝辞への対応について、1分程度の映像と資料3の文章を送ったことが報告された。

4. その他

特になし。

<審議事項>

1. 第29回大会（秋田大学・WEB開催）決算報告について（事務局）【資料4】

石坂事務局長より、暫定版の第29回学会大会決算報告がなされた。2万円ほどの黒字になっており、経費についても説明がなされた。特に質問などはなく、決算報告は資料のとおり承認された。すべての決算が確定した後、監査を受けることが説明された。続いて石坂事務局長より、WEB開催となった第29回大会の参加者・発表者に対するアンケート結果について説明がなされた。オンデマンド形式や文章による質疑応答の方法が好評だった一方で、発表閲覧期間を長くしてほしい、発表は音声を必須にすべきなどの意見があり、今回のアンケート結果を次回大会に引き継ぐことが確認された。

2. 第30回大会（京都産業大学・WEB開催）について（大会開催校）【資料5】

2020年度の第30回大会について、WEB開催とすることとし、石坂事務局長より開催案

の説明がなされた。主な内容は以下のとおりである。

- ・ 主管校である京都産業大学での実地開催が難しいため、WEB 開催とし、一般発表はオンデマンド形式とする。
- ・ 各委員会企画（シンポジウムなど）は可能な限りオンラインでライブ開催し、その録画動画をオンデマンド視聴できるようにする方向で進める。
- ・ 大会実行委員会は主管校の会員、関西地区の理事を中心に構成する予定である。
- ・ オンデマンド形式であるため、開催期間を長くとる必要があり、2月27日から開催する。シンポジウムの開催方法について質問があり、通常開催の場合と同様にスケジュールを組んで、2月27日・28日にオンラインで実施する予定であることが説明された。西山理事長から第30回記念大会の企画に関するワーキンググループを立ち上げることが提案され、メンバーは西山理事長、石坂事務局長、奥田理事、高橋理事（以上大会実行委員会）、大沼理事（研究委員長）、前田理事（国際交流委員長）の6名で構成することが承認された。開催案は資料のとおり承認された。

3. 2020年活動計画および2020年中間決算報告について（各委員会、事務局）【資料1、6】

4. 2021年活動計画および2021年予算案について（各委員会、事務局）【資料6、7】

議事3及び議事4について、2020年と2021年の各委員会活動計画が報告され承認された。

(1) 編集委員会（岡田委員長）

基本的に例年と変わらない予定だが、学会誌の年1回発行への変更案について検討しているため、今後の議論によって活動の予定が変わる可能性があることが説明された。

(2) 研究委員会（大沼委員長）

関東・関西の地区ごとに開催していた学生フォーラムを、zoomを用いたオンライン形式に一本化することになった。また、同じくオンライン開催となる第30回大会の委員会企画の検討、発表審査およびプログラム作成を今後行っていくことが説明された。

(3) 国際交流委員会（前田委員長）

第30回記念大会ワーキンググループと連携しながら、委員会企画の検討を進めていくことが説明された。また菊会長より、本学会の30周年記念に向けたメッセージをKSSSやISSAに依頼するよう提案があり、了承された。

(4) 広報委員会（退席した高橋委員長に代わり石坂事務局長）

活動計画については特に例年と変わりなく、会報の配信やホームページでの各種企画の告知を行っていく旨が報告された。

(5) 電子ジャーナル委員会（渡委員長）

学会誌第29巻第1号・第2号の投稿論文、前年度の特集論文、そのほかの早期公開論文の電子ジャーナル化を行っていくことが報告された。

(6) 学生研究奨励賞選考委員会（奥田委員長）

これまでと同様の進め方で、奨励賞の選考を実施していくことが説明された。

続けて石坂事務局長より、2020年中間決算報告、及び2021年予算案について資料にもとづいて説明がなされた。まず、2020年の中間決算については、学生会員の会費減額による収入減や第30回大会準備経費に10万円の支出が予定されているが、活動費が抑えられる委員会があるため、10万円程度の黒字になる見込みであることが説明された。

2021年予算案については、各委員会予算額は例年と同じとした。役員選挙が行われるため、7万4千円の赤字を見込んでいるが、オンライン会議などで各委員会の支出が抑えられる可能性があることが報告された。

以上の2020年中間決算、2021年予算案は承認された。

5. 役員選挙について【資料8】

石坂事務局長より、2021-2022年度の役員選挙について説明がなされた。役員選出細則によって、被選挙権を有しない理事を選挙管理委員長に選出することから、事

事務局に近い高橋理事を委員長にすることが事務局長より提案され、承認された。また、奥田理事が選挙管理委員に推薦され、承認された。開票立会人の2名については、後日選挙管理委員会が推薦して決定することが確認された。また、今回からの変更点として、理事定数の3割を少数の性とするクォーター制が導入されるため、文書でジェンダーバランスに配慮した投票を呼びかけることを確認した。

また、顧問への推薦要件を満たす会員から辞退があったことから、新たな顧問の推薦は行われなかったことが報告された。

特に質問などなく、スケジュールなどすべての事項が承認された。

6. スポーツ社会学会賞について【資料なし】

西山理事長より、スポーツ社会学会賞について検討するワーキンググループの立ち上げが提案された。メンバーは中江理事をグループ長とし、海老島理事、清水理事、松田理事、渡理事に杉本顧問、学会賞創設の事情に詳しい松尾会員を加えた7名で構成することとし、特に異議などなく承認された。

結論を導くスケジュールについて質問があり、可能な限り2020年度学会総会の直前に行われる理事会をめどに原案をまとめることが確認された。

7. 学会業務の電子化について【資料9】

石坂事務局長より、現在外部委託を行っている事務作業において生じている問題点についての説明があり、WEBを用いた学会業務の電子化が提案された。あわせて、システム導入のメリット・デメリット、見積もり等について説明がなされた。

システム導入によって10万円程度の支出増が見込まれることから、収支バランスについての質問がなされ、会員数が維持されることを前提とした場合、現在の黒字幅で十分対応可能なことが説明された。加えて、電子化によって事務局の仕事の分散が可能になること、理事選挙などに関わる郵送費が縮減可能であることがメリットとして説明された。会員のメリットをもう少し説明すべきという意見が出され、会員情報の更新がいつでも可能になること、年度会費の支払い状況がいつでも確認できること、クレジットカード払いの導入が可能になるとの説明がなされた（クレジットカード払いの導入経費については十分に確認できていなかったことから、後日理事会で報告を行う。※事務局追記）。

今後いくつかの業者から相見積もりをとり、理事会に報告することを条件に、2021年度からのシステムの導入が承認された。また、現在事務委託を行っている創文企画とも契約の見直しを進めることが承認された。

8. 入退会会員について（事務局）【資料10】

石坂事務局長より、新規入会者3名（事務局推薦1名を含む）、除名後の再入会者1名、退会予定者1名について説明があり、承認された。なお退会予定者については、会費未納のため2019年度中に退会手続きができていなかったが、今年度に入って会費が完納されたため、遡って2019年度での退会扱いにすることが確認された。また、事務局推薦の新規会員について、業績などが紹介され、入金確認後に入会とすることについて承認された。

また、会員数の動向について、2020年9月9日現在で正会員319名（うち顧問9名）、学生会員65名であることが報告された。

9. その他

特になし。

最後に西山理事長から閉会宣言がなされ、本会は閉会した。

以上

2020年度 日本スポーツ社会学会 第9回理事会（メール審議） 議事録

期日：2020年10月5日～10月8日

議事録担当：石坂（事務局長）

<審議事項>

1. 日本スポーツ体育健康科学学術連合による日本学術会議総会決議文支持声明文の公表に対する賛否について

日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に対する日本学術会議総会決議が政府への要望書として提出されるにあたり（10月2日、資料「日本学術会議第25期新規会員任命に関する要望に対する声明」）、日本スポーツ体育健康科学学術連合が発出する「決議文支持声明文」（資料）の公表に対する賛否と連名による支持表明が学会に求められている件について、西山理事長より連名による参加提案がなされた。全理事の賛成によって「決議文支持声明文」への参加が決定された。

以上

2020年度 日本スポーツ社会学会 第10回理事会（メール審議） 議事録

期日：2020年10月22日～10月31日（再見積もりが必要になったため一度中断）

2020年11月16日～11月22日

議事録担当：石坂（事務局長）

<審議事項>

1. 学会事務の電子化にかかる業者の選定について

第8回理事会で導入が承認された学会事務の電子化について、事務局がオンラインシステムを展開する業者からの見積もりを取得し、比較検討した結果、ガリレオ社のシステム（SOLTI）が経費、システム内容から望ましいのではないかと結論に達したことについて、各社の見積もりと事務局が作成した検討資料から審議が行われた（資料「学会業務の電子情報システム導入について（1022事務局案）」、「日本スポーツ社会学会決算・収支の推移（2017-20）」、「学会事務業務の情報化（各社見積もり）」）。

第8回理事会で質問が出されたクレジット決済の導入経費について、ガリレオ社からの説明、見積もり提出を受け、システムを導入した場合の追加コストと削減できるコストについて比較検証が行われた（事務局追記：契約内容にかかわることから詳細は省略）。

審議中の10月28日に、それまでの見積もり書から理事選挙システムの導入費用が無償であると理解していたのに対し、ガリレオ社から追加費用が必要であるとの訂正情報もたらされたことから、改めて見積もりを取り直すことにして審議はいったん中断された。

その後ガリレオ社からの見積もり再提出により、審議は11月16日に再開され、審議期間は11月22日までに再設定された。なお、これを受けて事務局よりの説明資料（「学会業務の電子情報システム導入について（1115事務局改訂案）」、「学会事務業務の情報化（各社見積もり）」）も改訂されて再提出された。

その後で中江理事より、①毎年の基礎的経費が増加することについて、事務局から提出された2017年より前の収支状況についての説明、②2017年以降会費収入が落ち込んでいるように見えた状況に対する説明、③現在委託契約を結んでいる創文企画との関係が契約打ち切りでどのようになるのか、また、どこまで協議が進んでいるかについての説明、の3点が求められた。

これに対して事務局長より、関連資料の追加提出がなされた（「質問に対する回答」、「日本スポーツ社会学会決算・予算書」（2013-19）、入退会者数の推移（2013-20）、「入金リスト」）。合わせて事務局長より、①現行のシステムに発生している諸問題のいくつかが解消不能な段階に来ていること、②決算状況については、2017年の収入が特に多く、それ以降が減少したように見えたのは、当時の会計処理の混乱によるもので、それ以前の収支と合わせて見ると2013年以降で収入は横ばいであることがわかった。最近は概ね20万程度の黒字で推移しており、会員減などの不測の事態に対処できる十分な繰越金が蓄積されていること（2019年時点で約250万円）、③2017年よりさまざまな経費の縮減が実施され、支出が減少していること、また、将来削減可能な経費が存在すること、④会員数は若干減少傾向であるが、その多くは会費未納者の除名を積極的に進めた結果であって、会費収入は2013年と2019年を比較してほとんど変化がなく、概ね230万程度で安定していることなどが説明され、電子システム導入に十分な余力があることが示された。また、創文企画との関係については、事務委託と編集作業は別個の契約を結んでおり、事務委託の解消により大きな追加経費は発生しない見込みであること、ガリレオ社が提案した電子システムのうち、こちらが採用する部分が決まらなければ協議に必要な情報が揃わないため、システム全体が確定した時点で協議に入ることが説明された。

これに対して中江理事より、創文企画との協議如何によっては追加の経費が発生する可能性もあり、事前に告知して打ち合わせを行うべきではなかったかとの指摘がなされた。事務局長より、電子システムの導入自体は、それが承認された第8回理事会の直後に創文企画に報告済みであることと、詳細が不確定な状況下では、具体的な協議には入られず、学会の立場を固めた上で協議に入るつもりであることが重ねて説明された。

それを受けて、オンラインシステムの導入自体は第8回理事会で承認されていたことと、業者の最終決定が今回の議事であることが理事長によって再確認された。議論の結果、電子システムの導入条件に関する疑義は解消されたので、ガリレオ社との契約を締結することが理事会として承認された。また、電子システムの導入によって並立しなくなる現在の創文企画との事務委託を整理する協議に入ることが承認された。

2. 新規入会者の承認について

再開された11月16日に新規入会者の承認に関する議事の追加があり、審議の結果申請のあった2名（正会員）について承認がなされた。

以上

2020年度 日本スポーツ社会学会 第11回理事会（メール審議） 議事録

期日：2020年10月31日～11月5日

議事録担当：石坂（事務局長）

<審議事項>

1. 日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する人文・社会科学系学協会「共同声明」への参加・賛同について

日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する人文・社会科学系学協会「共同声明」発出への参加・賛同が、社会学系コンソーシアムにより提案された件（資料「声明案」「賛同呼びかけ文」）についてメール審議がなされた。

「共同声明」への参加・賛同形式については、(A)発出主体（連名）として参加する、(B)賛同学協会となる、の2択があり、参加・賛同の際の名義は①学会、②理事会等、③会長、④理事有志、⑤その他、の5択があり、西山理事長より(A)発出主体として、②理事会名での参加提案がなされ、全理事の賛成によって「共同声明」への参加が決定された。

以上

6-2. 事務局からのお知らせ

(1) 日本スポーツ社会学会第16期(2021-22年度)理事選挙の実施について(正会員)

2021年1月~2月に第16期理事選挙を実施いたします。役員選出細則第5条により、選挙管理委員会(選挙管理委員長:高橋豪仁理事)が定めた期日(2020年12月31日)までにすべての年度会費(2020年度まで)を納入した会員が被選挙権ならびに選挙権を有します。(顧問は選挙権のみを有します。この期日まで退会意思表示をされた会員は被選挙権、並びに選挙権を有しません。)

選挙人名簿は学会ホームページ、及びメーリングリストにて2021年1月初旬に確認・確定作業を行い、1月12日をメドに郵送で発送いたします。メーリングリストへの登録がお済みでない方は、以下(2)の方法で登録をお願いします。

(2) 会員情報に関する電子情報システムの導入について

2021年度より、会員情報(所属、住所、メールアドレス等の個人情報と会費納入状況など)をオンラインで更新・確認できるガリレオ社の電子情報システム(SOLTI)を導入いたします。つきましては、学会からの案内は郵送での案内から電子メールへの案内に変更させていただきます。システムの移行に際して、こちらからご連絡差し上げることが多くなりますので、現在学会メーリングリストに未登録の方におかれましては、この機にメールアドレスを学会事務局(jsssjimukyoku@gmail.com)までお知らせください。以下のリンク(QRコードからも入れます)を用いたGoogle Formからの連絡もご利用いただけます。

登録フォーム <https://forms.gle/HbMNrrAcV7EzTAMKA>



電子情報システムの導入に伴い、2021年1月より名簿情報の移管作業を実施します。この作業により、2021年1月以降に会費をお支払いいただいた方の学会誌送付が3月以降に遅延いたします。ご了承くださいませよう、よろしく願いいたします。なお、2020年12月1日~31日の間にお支払いいただいた方につきましては、1月初旬の発送を予定しています。

(3) 「入会申込・種別変更届」について

例年、所属変更等により、学会からの送付物が届かないケースが発生しています。2020年度中は「入会申込・種別変更届」にてお知らせいただくようお願いいたします。フォーマットは、学会ホームページから入手してください。また、住所変更を年度会費の納入時などに振込用紙に書いていただくケースがあります。住所録の管理と作業が異なりますので、必ず「入会申込・種別変更届」にてお知らせください。2021年度からはオンラインシステムを用いて、ご自身で変更していただけます。

(4) 事務局の所在地について(2019年4月~2021年3月まで)

事務局の所在地は以下の通りです。

〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋西町
奈良女子大学文学系N棟120 石坂研究室内
事務局アドレス jsssjimukyoku@gmail.com

学会への連絡、入退会、住所・所属・メール等の変更、会費納入等につきましては、上記の事務局アドレスにご連絡ください。

事務局長 石坂友司(奈良女子大学)
事務局次長 浜田雄介(京都産業大学)

8. 編集後記

本号では、京都産業大学を主管校として2021年2月に開催される日本スポーツ社会学会第30回についての情報を掲載しています。コロナ禍のため、第29回大会と同様にウェブ開催となりますが、一般発表だけでなく、研究委員会企画、学生企画、国際交流委員会企画、実行委員会企画のシンポジウム等が予定されており、対面式の学会大会に比べても遜色ない、内容の濃い第30回大会になると期待しています。

本号の会報の発行をもちまして、今期（2019/20年度）の広報委員会は次期広報委員会へと引き継がれます。第73号から第76号までの4号にわたり、会報原稿を執筆して下さった会員の皆さまにお礼申し上げます。

広報委員会 高橋豪仁